

ウィーン・フィル ニューイヤーコンサート

新年のウィーンに花を飾る喜び

2012年12月28日
NHKラジオ

フラワーデザイナー

山下光江・あんふぁん(株)代表取締役

子供の頃から花が好きで、米国でプロを育てる学校でフラワーデザインを学ぶ。オハイオ州の花屋で修行。日本に戻り花の仕事をしている。2004年のウィーン・ニューイヤーコンサートの花を見てここの飾りつけの仕事で会場に入りたいと思いNHKはじめあらゆる伝をつかってコンタクト。ウィーン・フィルハーモニーの楽団長に書いた手紙がきっかけで花組合の組合長に接することができ3年かかって参加OKをとる。ウィーン国営放送のインタビューを受ける。

ウィーンフィルのニューイヤーコンサートはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が毎年、1月1日にウィーン楽友協会の大ホール(黄金のホール)で実施するマツネの一大イベント。鮮明な映像と音声は世界中で放映されている。

その素晴らしい音楽と沢山の花で彩られたホールの様子を心待ちにしているファンは多い。

主にシュトラウス家のワルツやポルカなどが演奏される。

ライブ映像が世界各国に中継され、世界中の人々がこのコンサートを楽しみにしている。会場の観客は正装をしているが、新年を祝う気持で陽気なコンサートになる。

数ある音楽界の中で切符の入手が極めて困難な、もっともプレミアがつく演奏会の一つ。券面額10万円のチケットの市場価格が数十万円になるのは有名な話です。

2013年はワーグナーとベルディという偉大なオペラ作曲家のメモリアルイヤーにあたるため、この二人の曲がニューイヤーコンサート史上はじめて演奏される。



このニューイヤーコンサートは音楽だけでなく会場に彩られた数多くの花も話題になっている。これほど多数の花で囲まれたコンサートは世界に例がない。

この黄金の会場が色とりどりの花で艶やかに飾り付けられる美しい花々は1980年以来、イタリアのサンレモ市から贈られることが伝統となっています。3万本ほどの切花と300から1000ほどの鉢花が寄付される。

11名から12名のフラワーデザイナーが飾りつけをしている。皆、仕事は速い。ほとんど地元のウィーンのデザイナー。山下光江さんはメンバーの中で唯一の日本人で、過去7年間、飾り付けに参加している。毎年、12月28日から飾り付けを開始、1、2階両サイドからTVカメラの前、パイプオルガンの上、舞台正面の足元……年ごとにテーマがあり、2013年は春っぽい花になる。ギリシャ神殿をもじった飾り付けにする。

サンレモ市はウィーン・フィルのニューイヤーコンサートだけでなく、先日おこなわれたノーベル賞の表彰式会場にも多くの花を寄贈している。

サンレモ市はリビエラの西のはずれのリゾート地。大きなカジノもある。日本の熱海市と姉妹都市になっている。サンレモ音楽祭で有名なサンレモ市はミラノから特急で3時間半。花の一大産地。イタリア中の花がここには集まる。

